# ダイバーシティ通信

## 担当理事からメッセージ

この７月から、ダイバーシティ推進の担当理事に就きました松田です。よろしくお願いいたします。

本学は近年、すべての教職員・学生がそれぞれの多様なバックグランド（性別、国籍、障がい、宗教、学歴…）にかかわらずにその能力を最大限に発揮できる場でありたいと、種々の取り組みをして参りました。特にその中心的な活動である男女共同参画に関しては、平成22年の男女共同参画推進室の設置以来、文部科学省科学技術人材育成費補助事業（女性研究者研究活動支援事業）の支援（平成25～27年度）もあり、この７年間で本学の女性教員数は約３倍の14名に、入学女子学生数は約２倍の100名程度まで増加しました。まだまだ満足できる数字には達しておりませんが、確実に学内環境が変わりつつあることだけは実感されます。さらに学内における男女共同参画への理解を深めるために、今年度も、女性研究者のロールモデルを若い世代に提示する機会である「ランチタイムセミナー」の開催や、全教職員を対象とした「トップセミナー」の開催、ライフイベント期（妊娠・育児・介護…）にある教職員への支援事業の実施等を予定しております。詳細につきましてはウェブページ等にてご案内致しますので、ぜひ積極的な御参加・利用をお願いいたします。

さて、「ダイバーシティ」という概念は、必ずしも男女共同参画のみを指すものではありません。大学における推進活動においても、外国籍教員や留学生、障がい者など、現状では多数派ではない人々も不便を感ずることなく活躍できる環境を実現するために、推進活動のウィングを広げていく必要がありましょう。これら、ダイバーシティ推進の今後の活動に関する点についても、広く御意見を頂けると幸いです。

国立大学法人 室蘭工業大学　理事（総務担当）・副学長　松田　瑞史

女性研究者支援ユニットコーディネータからメッセージ

## 性差別と人権

特任教授　貞許　礼子

この「ダイバーシティ通信」は 2014年８月に創刊してから、１年に２回のペースで発行しており早くも第７号になりました。私が本学に着任した 2014年３月にはすでに「男女共同参画推進室に女性研究者支援ユニットを設置」して「約１年以内にニュースレターを発行」すること自体は決まっていました。本学が当時採択されていた「文部科学省科学技術人材育成費補助事業女性研究者研究活動支援事業（一般型）」のプロジェクトの一環として計画に入っていたからです。そこで、まず他大学の男女共同参画関連のニュースレターをいくつか調べてみました。その時驚いたことには、ピンク系の配色や花モチーフなどステレオタイプの「女性らしさ」を追求したかのようなデザイン、幼児むけのお便りに多くみられるようなどんぐりやかたつむりのイラスト、ポップなフォントを積極的に取り入れたものなど、大学の発行するニュースレターとしてはおよそ例外的で風変わりなデザインのものが数多くありました。このような状況を見て私は、ニュースレターの編集に携わっていくうえで「性別によるステレオタイプの再生産に加担することは避ける」ということを特に心掛けることにしました。その意識は「ダイバーシティ通信」という名称にも込められています。

最近の国内メディアによる「性別ステレオタイプの再生産」は、「女性の活躍」や「ダイバーシティ」が叫ばれている時代にも関わらず顕著で、以前よりも勢いを増しているのではないかと思うことさえあります。帯広畜産大学教授の杉田聡氏は2017年８月17日付WEBRONZA で「ヘイトスピーチには性別も問われなければならない」と書いています（http://webronza.asahi.com/culture/articles/2017081600002.html『「秋元康問題」の本質は「ヘイトスピーチ」である』）。ヘイトスピーチの話題のときに性差別のことは論じられないことがよくあるのですが、性差別も国籍・民族等による差別と同様、基本的人権の問題としてとらえなおすことが重要です。アイドルの歌だけではなく、日本映画の予告編やポスター、テレビドラマ、報道番組におけるキャスターやアナウンサーの性別、年齢、服装や準備されたコメントなどにもステレオタイプが氾濫しています。戦前・戦中から高度経済成長期の古い性的役割分業の価値観が懐かしくてどうしても忘れられずに現代人にも強制したい、という人達がいるのでしょう。しかしながら、昔とは違って洋画や海外ドラマ、海外の報道番組の視聴が比較的容易になり、（たとえ字幕付き等でも）吹替ではなく原語を同時にチェックすることも可能になっていますから、ジェンダー問題に関するこのような「鎖国状態」は長続きしない、と楽観的に考えたいと思います。

北海道新聞　2017年９月16日朝刊７面のオピニオン<各自核論>に作家の星野智幸氏が「文学と差別表現」と題して「作家の無関心さに危機感」と書いていました。国籍や民族に関する差別的な表現を、言葉のプロであるはずの作家が無自覚に使ってしまっている例をあげ、「無邪気に差別に陥るような事態を避ける姿勢が、プロとして言葉を使う者には必要なのではないか」と主張しています。作家に限らず、「表現する」という行為に携わる人々は、「表現の自由」という言葉に甘えることなく、「無邪気に差別に陥るような事態を避ける姿勢」を保つことが重要です。想像力には経験不足からくる限界もあるでしょうが、一人ひとりが様々な学びを通して批判的に考えていけば、きっと対処できると期待しています。

**ご存知でしたか？**　本学では、以前より、

「会議は９時から17時の間での開催を原則とすること」

「毎週金曜日は定時一斉退勤日（金曜の夜間主コース関係者等は除く）」

となっております。
まだ一部の方にしか知られていないかもしれません。
すべての構成員がより生き生きと活躍できる室蘭工業大学のために、皆様のご理解ご協力をお願いします。

## 図書紹介

UFR（A331室）での閲覧・貸出のほか、学内便での貸出にも対応しております。どうぞご利用ください。

*メディアリテラシーとジェンダー：構成された情報とつくられる性のイメージ*（諸橋 泰樹） 現代書館

*なぜジェンダー教育を大学で行うのか：日本と海外の比較から考える*（村田 晶子/弓削 尚子 編著）青弓社

*ジェンダーの神話 ：「性差の科学」の偏見とトリック*（アン・ファウスト-スターリング 著/池上 千寿子、根岸 悦子 訳）工作舎

*フランスに学ぶ男女共同の子育てと少子化抑止政策*（冨士谷 あつ子/伊藤 公雄） 明石書店

*オランダ流ワークライフバランス*（中谷 文美） 世界思想社

*男子問題の時代？：錯綜するジェンダーと教育のポリティクス*（多賀 太）文学社

*女性管理職の教科書*（小川 由佳） 同文舘出版

*職場のLGBT読本：「ありのままの自分」で働ける環境を目指して*（柳沢 正和/村木 真紀/後藤 純一）実務教育出版

*男尊女卑という病*（片田 珠美）幻冬舎新書

*男女平等は進化したか ：男女共同参画基本計画の策定、施策の監視から*（鹿嶋 敬）新曜社

*文科省/高校「妊活」教材の嘘*（西山 千恵子/柘植 あづみ） 論創社

*家庭教育は誰のもの？：家庭教育支援法はなぜ問題か*（木村 涼子）岩波書店

*おひとりさまの最期*（上野 千鶴子）朝日新聞出版

また、本学男女共同参画推進室発行の「室蘭工業大学ロールモデル集：大学院を修了した先輩 11 名からあなたへ贈るメッセージ」および「平成25年度-27年度活動報告書」につきましては、学外の方も含めご希望の方に配布しております。UFR までご連絡ください。

## 開催予告：

キャリア形成のためのランチタイムセミナー第９回

「継続は力なり」

10月17日（火）12：10-12：45　A317室

（学生・院生対象）

講師： 森 美和子 氏（国立大学法人 北海道大学　名誉教授）

第９回目の講師は、有機合成化学がご専門で、特に有機金属錯体を利用した新しい反応の開発とそれを利用した生物活性化合物の合成を研究してこられた森美和子先生です。先生は1972年に北海道大学薬学研究科博士課程で学位を取得した後、同大助手、助教授を経て1992年から2004年まで教授を務め、名誉教授となられました。有機合成化学協会賞、日本薬学会賞、猿橋賞など数々の賞を受賞されています。

学生・院生・研究員の皆様、ぜひご参加ください。
昼食はお持込で飲食できます。男性の方もぜひご参加ください。

## 開催予告：

教職員のためのトップセミナー2017

「理系女性研究者の活躍促進に向けた取組　ノウハウ ～東京農工大学の場合～」

11月28日（火）15：00-16：30

室蘭工業大学 本部棟 大会議室　(教職員対象)

講師：宮浦 千里　氏（国立大学法人 東京農工大学　副学長）

男女共同参画推進室では、教職員のためのセミナーを毎年開催しています。今年度の講師は東京農工大学女性未来育成機構長の宮浦千里先生です。農工大はこれまでに、平成18年女性研究者支援モデル育成事業、平成21年女性研究者養成システム改革加速事業、平成25年女性研究者研究活動支援事業（拠点型）を実施しています。現在は、平成28年ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）を実施中で、女性管理職増加および女性研究者の在籍比率目標25%を掲げて事業を推進しています。

## 開催しました：

キャリア形成のためのランチセミナー第８回

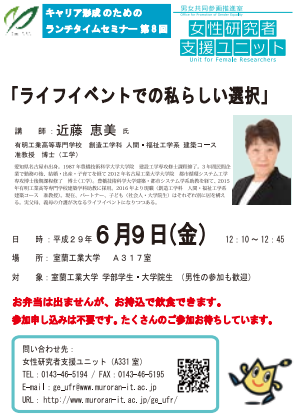
「ライフイベントでの私らしい選択」

平成29年６月９日（金）12:10-12:45　A317室（学生・院生対象）

講師：近藤 恵美 氏

（有明工業高等専門学校 創造工学科 人間・福祉工学系 建築コース 准教授　博士 （工学））

今回の講師は、修士課程修了後の会社勤め・結婚・出産をへて、子育てのあと大学院博士課程で学位を取得し、工業高等専門学校の准教授になった近藤先生です。現在の研究・教育の紹介のほか、「昔はトンネル工事などの土木現場には女性というだけで入れないことがあった」「子供は親とは別の人格であるから、子育てだけではなく自分の人生も考えていく必要がある」等、ご自身の経験からのお話がありました。参加者は16名でした。



英語論文２Daysセミナー　2日目 第1部

「英語論文執筆のAtoZ　英文校正のプロが教えます」

平成29年６月30日（金）N403室（若手研究者・院生対象）

英語のみで進行13：00-14：00　日本語の解説付き14：30-16：00

講師：Garry Heterick 氏（Southern Cross株式会社代表）

附属図書館と共催で、英語論文 2Days セミナー２日目第１部「英語論文執筆の A to Z: 英文校正のプロが教えます」を６月30日（金）N403室で開催しました。論文執筆のポイントについて、Garry Heterick 氏（Southern Cross 株式会社代表）が解説しました。Heterick 氏の英語のみによるセミナーと、日本語の解説を加えたセミナーが開催されました。日本語の解説は本学の貞許礼子特任教授が担当しました。参加者数は合計59名でした。

参加者の感想から一部をご紹介します。

講師の方のお話も分かりやすかったですが、日本語の解説が加わることで、よく理解できなかったところも分かりました。構造を意識して文章を読み書きしようと思いました。（学部生）


ダイバーシティ通信　第７号（2017年９月）
国立大学法人 室蘭工業大学
男女共同参画推進室 女性研究者支援ユニット（UFR）
〒050-8585
北海道室蘭市水元町27番１号（教育・研究１号館 A331室）
TEL：0143-46-5194 / FAX：0143-46-5195
E-mail：ge_ufr@www.muroran-it.ac.jp
URL：http://www.muroran-it.ac.jp/ge_ufr/


本誌および本学の男女共同参画等についてのご意見・ご要望をUFRまでぜひお寄せください。

本学の男女共同参画推進を応援してくださる個人･企業からのご寄付を受け付けております。詳しい手続きは下記URLをご覧ください。
http://www.muroran-it.ac.jp/ge_ufr/kifu.html
ぜひご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

男女共同参画推進室
Office for Promotion of Gender Equality
女性研究者支援ユニット
Unit for Female Researchers